



学校だより

1月号

「りんかい」

ホームページアドレス

<http://www.edogawaku.ed.jp/rinkais>

令和8年1月8日(木)

江戸川区立臨海小学校

校長 西沢 盛和

新年のスタート！ 今年も素晴らしい年になりますように！

校長 西沢 盛和

令和8年が始まりました。今年も、子どもたち一人一人が「今日が楽しく明日が待ち遠しい」と思えるような楽しい学校生活が送れるように、教職員一同最善を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

子どもたちにとっての学校生活における「楽しさ」は、子ども一人一人それぞれ違うと思います。しかし、それが学級内での人間関係・友達関係にかかわっているということは共通していると思います。静かに一人過ごすことを好む子が一人みんなと離れたと思ったときに、それを尊重して見守ってくれる雰囲気なのかどうか。学習の進みが人より遅い子がずいぶん遅れても頑張って成果を出したときに、それを肯定的に受け止めて次もゆっくり進むことができる雰囲気なのかどうか。それは先生と子どもたち、子どもたち同士の人間関係にかかわっています。

学校は集団生活の場です。集団のルールが個人の都合より優先しがちです。しかし、ルールを優先しすぎると集団から逸脱してしまう子を逆につくり出してしまうことになることが多く、そうなるとルールを強制する「優しくない」雰囲気の学級になっていきます。そうならないように、個人の都合をも包み込む優しい学級、それを実現する優しい人間関係をつくっていききたい、それが今年も変わらない私の目標です。6年生の書いた「いじめをなくすために」という読書感想文の結びの文章に「一人一人が自分の居場所を見つけて、その場所を大切にしていけばいじめはなくなるのではないかと思います。」とあります。まさしくその通りで、子どもに教えられて身の引き締まる思いです。子どもたち一人一人の居場所づくりとそれぞれの居場所を互いに大切にすること、それこそが目指すべき優しい学校です。

いじめをなくすために
六年

「今日の給食なんだろう?」

「昨日のテレビ見た?」

私は学校で友達といつもこんな話をしています。六年生になってから仲の良い友達が増えました。みんな優しく接してくれるし、思いやりあふれる友達です。私は友達といくと心が楽しくなるので、学校だけでなく放課後もいつも公園で遊んでいます。この友達との時間がなければつまらないし、さみしいです。

私は『人生を変えたコント』という本を読みました。お笑い芸人霜降り明星のせいやさんが高校時代に経験したいじめの話です。

(中略)

私は読みながら、せいやさんをいじめている人が怖かったし、いじめている人はせいやさんに対して何も思わないのかと驚きました。いつも笑っているせいやさんのお母さんが泣いてしまう場面ではとても悲しくなりました。せいやさんはお母さんが泣いているところを見たことがなかったそうです。お母さんの涙によって、せいやさん自身も悲しくなったのだらうなと思います。いじめはひどいことだと改めて気づきました。

私はいじめたり、いじめられたりした

経験がありません。もしこれから先、私がいじめられたら、すぐに先生や両親に相談すると思います。いじめた子が反省してあやまつてきたとしても、私だったら許せなくなり無視してしまうかもしれません。

(中略)いじめが辛かったら学校に行かないという方法もあったのに、せいやさんは毎日学校に行きました。私はせいやさんの心がとても強いし、お母さんに心配をかけたたくない気持ちがあったのだらうなと思いました。せいやさんは本当に優しい人です。

この本から私は、いじめは誰もいい気持ちにならないということを学びました。せいやさんもお母さんも、そして読者である私もとても悲しくなつたからです。私は仲の良い友達ができるまでに時間がかかりました。仲の良い友達はそう簡単にはできるものではないと気づきました。だからこそ、これからも友達との時間を大切にしていきたいと思っています。私やせいやさんと同じように、みんなも本当に仲の良い友達、気の合う友達を見つけれられると良いです。一人一人がせいやさんのように自分の居場所を見つけて、その場所を大切にしていけば、いじめはなくなるのではないかと思います。

(読書感想文全国コンクール江戸川区審査会優秀賞作品)

令和7年度	1月	行事予定	授業日16日
-------	----	------	--------

[illegible]